多自然川づくり取り組み事例

タイトル	プール掘りによる治水安全度の早期向上と多様な水域の創出		
水系／河川名	太田川水系　太田川	河川分類	中小河川
河川の流域面積	488	整備計画流量	3200m3/s
セグメント	2-2		
事業	河川改修	事業開始年度	平成26年度
目標設定	定量的	段階	D（実施・施工時）
課題・目的（主な）	流下能力の確保、ワンド・たまり、池沼の保全・再生・創出、その他		
工法（主な）	掘削（高水敷）		
配慮事項（主な）	施工管理、その他		

背景・課題、目標設定

（背景）

太田川水系の河川は、度々災害を繰り返し、沿線住民の生活を脅かしてきた。昭和49年の七夕豪雨の際には、堤防決壊した箇所もあり、その後も各所で浸水被害を繰り返している。

一方で、多種多様な動植物が生息・生育し、地域の人々の生活と深い関りを持つ「ふるさとの川」として親しまれてきた。このような太田川水系の特性を踏まえ、太田川水系河川整備計画を策定、整備箇所の一つに、太田川河口から4.0km付近までの区間で掘削による河積の拡大を位置づけている。

当該箇所には、既設の和口橋が架かっており、計画幅はW=210mであるが、既設和口橋は橋長L=120m、通水部W=75mと狭く、河道拡幅のネックとなっている。

（課題）

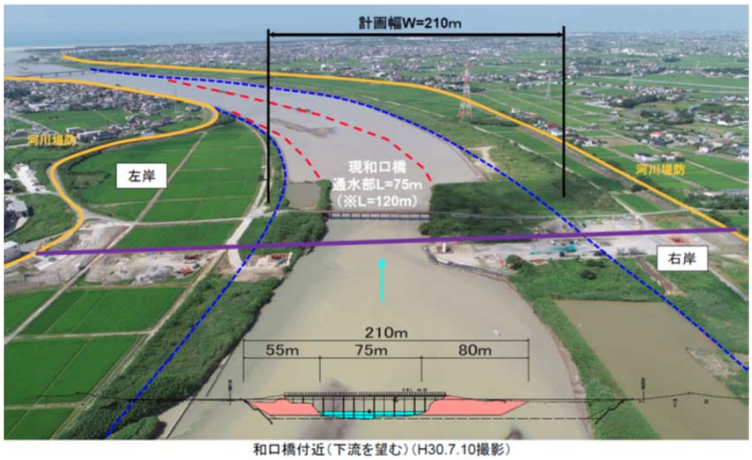
和口橋は供用しているため、架け替えが完了しないと上流の河道断面を広げることができない。

しかし、浸水被害早期解消に向け、河道掘削の進捗を図るため、和口橋架け替えが完了しなくても、掘削作業を進めたい。

（目標）

新しい和口橋は令和3年3月に開通予定であるが、その前に河道掘削を進めて、早期に河道拡幅による効果の発現を図る。また、当該箇所は汽水域であり、多種多様な生物が生息しているため、それらも保全していく。

◆河川整備計画　（河道断面）



和口橋付近（下流を望む）（H30.7.10撮影）

取り組み内容・対策例（1/2）

（現在の取り組み）

河道掘削にあたり、既設橋梁に負担を与えないように、小堤防を残しプール掘りをする。掘削はICTを活用することで、水中での掘削も可能となり、水替えを行わないため、濁水が河川内に流入することはない。

取り組み内容・対策例（2/2）

（今後の取り組み）

橋梁の架け替えが完了し、既設橋梁の撤去後には、上流の断面を広げるため、小堤防を掘削する。掘削する際に、小堤防を全部撤去するのではなく、一部をカットすることで、ワンドを形成する。

ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ結果、ｱﾋﾟｰﾙﾎﾟｲﾝﾄ、今後の対応方針

（今後の対応）

小堤防をカットし、ワンドを形成することで、多様な環境が創出でき、生物の保全に繋がると考えられるため、モニタリング等を行っていき、効果検証をしていく。

（アピールポイント）

今回の取り組みは、通常の工事の中で掘削の形状を工夫しているだけで、特別にお金がかかる工法ではない。また、施工中も濁水を河川内に流すことがなく、経済性、環境性に優れている。小堤防の残し方や河床の横断勾配などを工夫することで、更に多様な水域の創出ができ、他の河川でも応用ができる可能性がある。

備考

問い合わせ先	静岡県袋井土木事務所　河川改良課
電話番号	0538-42-3289